

# ホームページ掲載用シート

子ども会用 No.1

子ども会名（ふりがな） 羅臼町子ども会育成協議会	連絡先（〇〇方、〇〇気付など具体的に） 〒086-1823 北海道目梨郡羅臼町栄町102番地 羅臼町教育委員会社会教育課 TEL0153-87-2004
会員数： 幼児（ ～ ） 小学生（ ～ ） 中学生（ ～ ） 高校生（ ～ ） JL（18）名 指導者（269）名 65名 284名 168名 3名 合計 520名 合計 287名	
地域の状況： 羅臼町は、世界自然遺産『知床』に位置する、人口約5,600人の小さな町です。町は少子高齢化や若い世代の都市部への流出などから、人口は減少の一途を辿っています。それに伴い、子どもの数も減少してきており、子ども会の事業規模が縮小してきている状況にあります。しかし、子どもたち自身は活発であり、積極的に様々な社会教育事業やスポーツ事業にも参加しています。羅臼町は世界自然遺産知床を有しているため、その雄大な自然を生かした事業なども多く展開されています。	
発足から現在までの主な沿革 昭和45年～開基70周年記念事業の一環として市街地子ども会の育成者が中心となり、第1回ソフトボール大会を開催。これが契機となり育成協の組織化へとつながる。 昭和47年～『羅臼町子ども会育成協議会』が11団体により結成される。 昭和48年～知昭町子ども会加盟。 昭和50年～岬町子ども会加盟。 昭和51年～海岸町子ども会加盟。第1回町内子ども会カルタ大会開催。 昭和52年～峯浜町子ども会加盟。 昭和54年～北海道青少年健全育成運動実践地区の指定を受ける。（春日町子ども会） 昭和55年～子供の手による事業運営を図るため、子ども会リーダー会議を開催。 昭和56年～第1回ふるさと少年探険隊事業がスタート。 昭和59年～羅臼町子ども会育成協議会15周年記念式典並びに祝賀会を開催。 昭和61年～第1回交通安全旗コンクールを交通安全協会と共催で開催（ソフトボール大会と合同開催） 昭和63年～根室管内教育実践表彰を受賞。 平成元年～羅臼町子ども会育成協議会20周年記念事業（猿舞座・パフファミリーコンサート）を開催。第1回パークゴルフ大会を開催。（ソフトボール大会と合同開催） 平成3年～第1回子ども会対抗雪合戦を開催。カナダの子ども育成事情視察実施。 平成4年～カナダへの子ども海外研修事業実施。 平成6年～ソフトボール大会をキックベースボール大会に変更。 平成12年～羅臼町子ども会育成協議会30周年記念式典及び記念事業として記念誌発行。 平成15年～第1回羅臼町子ども祭り開催。 平成19年～博報賞受賞。	
子ども会での活動（年間行事計画） 4月：総会 6月：第1回子どもリーダー会、役員会 7月：ふるさと少年探険隊（参加者・スタッフ事前研修含む）、第2回子どもリーダー会 9月：キックベースボール大会・パークゴルフ大会・交通安全旗コンクール（同日開催） 10月：クナシリ眺望駅伝競走大会への協力 11月：第3回子どもリーダー会、羅臼町子ども祭り 12月：第2回役員会 1月：第4回子どもリーダー会、かるた・オセロ・百人一首大会	
活動プログラムは誰が作りますか…？ 1 子どもたち <input checked="" type="checkbox"/> 2 子どもと大人の代表 3 大人の作ったプロに子どもの意見を聞く    4 大人だけ 5 その他（	

特色ある活動及びプログラム、自慢できること：

羅臼町子ども会育成協議会では、教育委員会と共催で『ふるさと少年探険隊』（以下、探険隊）という事業を毎年行っており、1981年から始まり今年で32回目を迎えました。この探険隊は、羅臼の若者の一人が東南アジアでの船旅で、夕日が音を立てて海に沈んでいくのを見た時の強烈な感動体験を「ふるさとの子どもたちにも見せたい」という思いから、羅臼で夕日が見られる唯一の場所である知床岬を目指すこの事業がスタートしました。探険隊の事業主旨等は下記のとおりです。

《主催》羅臼町子ども会育成協議会・羅臼町教育委員会・羅臼町公民館

《目標》ふるさとの自然に親しみ、豊かな心を養うとともに、郷土愛や忍耐力、協調心を育てる。

- 《内容》
1. ふるさとの自然に親しみ、ふるさとの理解を深める。
  2. 団体活動の大切さを知り、仲間と協力して仕事をやり遂げる。
  3. 厳しさやつらさに耐え、目的に向かって頑張る力を身につける。
  4. 働くことの尊さ、喜びを知る。
  5. 自然のものを工夫して、生活に必要な道具を作る知識・技術を身につける。
  6. 知床半島の自然環境の保全に努める。

羅臼町内の小学校4年生～中学校3年生を対象とした5泊6日で実施する野外体験事業。

[わんぱくコース]※小学校4年生以上対象

相泊地区から8km地点にあるモイルス湾にて実施。

(岩場にシートを敷き、川の水を沸かして作る露天風呂づくり/野外炊飯を行うための釜戸作成/ローインパクト指導/釣り及び刺し網体験プログラム(自給自足)ほか)

[チャレンジコース]※わんぱくコースを体験した小学6年生以上

2泊3日の行程から知床半島を縦走し、突端をめざしコース。モイルス湾より16kmの過酷な道なき道を踏破する。突端着後は、わんぱく隊と合流する。

探険隊は、世界自然遺産である知床半島の沿岸を歩いて移動していくため、場所によっては断崖絶壁のような崖を、ザイルを使いながら登ったり、波打ち際の岩壁にしがみ付きながら渡ったりと危険な箇所が数か所あります。そのため、参加者やスタッフには事前に安全面に関する研修を行い、事業実施期間中の様々な事象に対処しうる知識や技術を身に付け、リスクを少しでも軽減できるように努めています。スタッフの人数も参加する子供の人数とほぼ同人数を配置し、『子どもだけ』の瞬間がないように常に目を配り、サポートをしています。スタッフには事前研修時に『ふるさと少年探険隊指導の原則』が記載された資料を配布し、探険隊期間中の子どもたちへの関わり方、指導方法など共通認識をもって本行程に臨んでもらっています。また、保護者には説明会を開催し、わが子を危険な大自然に送り出す親の不安を少しでも軽減できるよう努めています。

ベースキャンプ地のモイルス湾には、秋サケ定置漁業者の番屋があり、トイレや流しなどそこにある最低限の施設を使わせてもらいながら、5泊6日間の生活を送ることとなります。モイルスでの生活をより良くするために、子どもたちが自分で考え、試行錯誤を重ねながら、様々な工夫を凝らして活動をしていくその過程で、『生きる力』を身に付けていくものと考えます。また、『チャレンジ隊』は様々な難所や過酷な環境を仲間とともに乗り越えながら、目的地である啓吉湾に到着した時の達成感、岬で海に沈む夕日を見た時の感動は子供たちの心にずっと残っていくものであり、そういった体験が豊かな心を育み、郷土愛を芽生えさせるものと感じています。事実、探険隊での5泊6日間という期間だけでも、子どもたちは大きく成長します。最初は戸惑っていた炊事や後片付けも、最後のほうではテキパキとこなすようになりますし、歩いて羅臼に戻る行程中には仲間同士励まし合いながら歩く姿が見られるようになります。こういった子どもの変化、成長を見て取れるこの事業は本当に素晴らしいものであると感じています。

この探険隊という特別な事業は、世界自然遺産知床を有しているという環境、子どもの事を真剣に考え、その成長のために積極的に協力をしていただける地域の人たちやスタッフの存在があるからこそ成り立っている事業です。これから先、少子高齢化が進んでいき、今の状況と大きく異なる町勢になろうとも、この事業はこれからもより良い形で変遷していきながら続けていかなければならないものと深く受け止め、更なる事業深化を進めていきたいと考えています。

子ども会活動における問題点：

子どもの人数が減少傾向にあるため、どのように活動を継続、展開していくのかが課題となる。今ある事業を無くすことはせず、如何にその時の状況に沿った形で継続させていくのかなど、協議しながら方向性を定めていく必要がある。

子ども会活動における今後の展望：

上記の問題解決のために、議論を積み重ねていく必要がある。また、子どもの数が減少していくのを憂いているだけでなく、子ども会の活動を通して子ども達自身が『羅臼が大好き』、『羅臼で暮らしていきたい』と思えるような効果を生み出せるような事業、活動の在り方を模索していきたい。

活動の写真



写真の説明：

第36回かるた・オセロ・百人一首大会のかるた部門の様子。かるたは羅臼町民体育館アリーナ、オセロは羅臼町公民館和室、百人一首は羅臼町民体育館道場で開催している。平成25年度は、120名の参加者であった。

活動の写真



写真の説明：

第21回キックベースボール大会の様子。羅臼町総合運動公園内の町営球場を使用し、キックベースの大会を毎年行っている。また、同日第26回パークゴルフ大会及び第29回交通安全旗コンクールも行っている。今年度はキックベースボール大会に59名、パークゴルフ大会は6名の参加者であった。

活動の写真



写真の説明：

第13回子ども祭りの様子。羅臼町総合文化祭の1コマとして開催している事業で、子どもたちが出店など行い、来場者に販売提供している。今年度は、14名の子どもと7名の役員で運営を行った。

活動の写真



写真の説明：

第32回ふるさと少年探険隊の様子。子どもたちが知床半島で5泊6日間の野外体験学習を行う事業。写真は最終日、滞在場所であるモイルス湾での集合写真。今年度は、子ども40名スタッフ28名で実施した。